



役員会で提言する女性協議会のメンバー②

# 女性協議会が活動報告 残業時間平準化などで提言

C S E

建設コンサルタント業界でも屈指の女性比率を誇る中央設計技術研究所（略称「CSE」、金沢市）の社内組織である女性協議会は、26日に開かれた役員会において、61期活動報告並びに提言を行った。

女性協議会は、職場における女性の活躍推進を目的として、2016年10月に発足。「成長」「活躍」「情報共有」などの6項目を目的として、女性（特に一般職）が働きやすく活躍できる職場環境づくりに向けて、積

極的に活動を行っている。

同日は、女性協議会の下千鶴代表と吉野直美副代表が出席。今期の活動報告として、①残業時間平準化に向けた検討②職能等級確認表の改善提案③介護制度に関する検討の以上3項目の検討結果を発表した。

このうち、残業時間平準化に向けた検討では、基幹職及び一般職を対象にしたアンケートを実施するとともに、6グループに別れて意見交換会を開催し、働きやすい職場に関する意見収集を実施した。その結果、全社的な問題点として「コミュニケーションに対する考え方の乖離」「職群に対する定義が曖昧」「スキルアップについて」の3

つの課題が見つかった。なかでも、「コミュニケーション」の課題では「上司に話しかけにくい」「誰に質問すれば良いかわからない」などの意見が多かったことから、その改善案として、④メールなどで要点をまとめて質問する⑤定期的な「質問タイム」を積極的に設ける⑥話しかけやすい雰囲気づくりを心がけていくなどを提案した。また、今回実施した意見交換会が有意義だったとの意見も多く、来期以降の「定例開催」を提言した。

今回の提言を踏まえ、笠松英昭社長は「いい意見が多く、大変参考になった。意見交換会については、定例で開催できるようソリューション事業

部の経営企画室で検討していく」と評価した上で、「残業時間の平準化に向けたコミュニケーション」の部分は会社全体の課題であると認識しており、引き続き改善策と一緒に考えていきたい。世の中が急激に変化しており、介護制度などの残る課題に対しても、来期も継続的に検討をお願いしたい」と、今後の女性協議会活動に期待した。